

ビールビ・ポーティアス著

『1783年2月21日金曜日、セント・メアリ・ル・ボウ教区教会における海外福音伝道協会の年次記念大会で述べられた説教』

—Beilby Porteus, *A Sermon Preached before the Incorporated Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts: At Their Anniversary Meeting in the Parish Church of St. Mary-Le-Bow, on Friday February 21, 1783—*

青柳かおり (大分大学教育学部)

18世紀初頭から、イングランド国教会はイギリス領植民地における異教徒への布教活動を本格的に開始し始めた。1701年、国教会によって海外福音伝道協会 (SPG) という布教組織が設立されたのである。ポーティアスは18世紀後半に活動した国教会の高位聖職者であり、この説教を行った当時はチェスタ主教を務めていた。彼は非常に熱心に布教活動を推奨しており、とりわけ西インド諸島のアフリカ系奴隷へのキリスト教教育を説いていた。奴隷に教育を受けさせることに対して、プランターや多くのイギリス人の間に強い反対があった時代であったが、このSPGの年次記念大会の説教においても、彼は奴隷への教育や布教の重要性を主張していた。また、彼はそのような布教によってキリスト教徒になった奴隷は、従順に主人に仕えるようになるとも述べている。

キーワード： 海外福音伝道協会，イングランド国教会，布教，イギリス領アメリカ植民地，黒人奴隷

訳文

預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある箇所が目にとまった (ルカによる福音書，第4章第17節)。主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし (第18節)、「主の恵みの年を告げるためである (第19節)。」イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた (第20節)。

このように、我々の慈悲深い贖い主は神の任務を開始された。我々がほかの著名な宗教的教師に求めても甲斐のなかった、言語と情緒両方の威厳とやさしさをもって開始されたのである。彼がこの高貴な予言を述べられた後に、我々はこのことを容易に想像するであろう。「会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた (ルカによる福音書，第4章第20節)。」「すぐに彼らは皆イエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った

(第 22 節)。」彼らのこのような賞賛は、すぐに全く別の感情へ取って代わられた。そして、彼へのよこしまで無分別な偏見に対してイエスが彼らを非難した結果、「これを聞いた会堂内の人々は皆憤慨し、総立ちになって、イエスを町の外へ追い出し、町が建っている山の崖まで連れて行き、突き落とそうとした(第 28, 29 節)。」しかし、聖書の言葉において述べられた、崇高で感動的な彼の宣言を我々が読む時、我々の判断を誤らせ我々の感情を圧倒する、彼らのような偏見と激情を我々は持っていないので、彼に対する愛情と崇敬で我々は必ず満たされるであろう。我々は「主の聖霊が本当に彼の上にあった」、そして、実に彼は、彼が暗誦したイザヤ書の一説で明白に言及された人物であったと確信せざるをえない。我々は我々の主が、預言者の言葉を文字通りに、および精神的意味においても完全に立証されたことを知っている。彼は富において貧しい者、精神において貧しい者、宗教的知識において貧しい者に福音を説いた。彼は傷心の者を癒やし、災難、病氣、罪によって抑圧されている人々を奮い立たせ慰めたのである。

彼にとって、それは肉体および魂の弱さとともに打ち倒された。彼の言葉は次のようであった。「子よ、元気を出しなさい。あなたの罪は赦される。あなたは良くなったのだ。もう、罪を犯してはいけない。」彼は弱った手に力を込め、よろめく膝を強くした。「彼は彼らに言った。心おののく人々に言え。雄々しくあれ、恐れるな。見よ、あなたたちの神を。敵を打ち、悪に報いる神が来られる。神は来て、あなたたちを救われる(イザヤ書、第 35 章第 3, 4 節)。」

その時、見えない人の目が開いた。彼は精神的および身体的に目から曇りを取り除いた。そして、「闇と死の陰に座る者」に対して、彼はすぐに昼の快活な光と神の真実のより栄誉のある光を表した。捕らわれている人、圧迫されている人に彼は解放を説いた。彼らの罪によって捕虜になり奴隷にされていた者たちに、彼は霊的な束縛から解放する説教を行っただけでなく、獐猛な精神を緩和し抑制した。そして、地上にそのような穏やかでやさしい慈悲の人道的な精神を普及させたので、ほとんどのキリスト教世界において、個人の奴隷身分の重い鎖はしだいに壊された。そして、長い間、異教徒の残酷で抑圧的な手によって奴隷にされてきた者たちは、ついに自由になった。

このように、我々の神聖な主は預言者が述べたことを成し遂げられた。そして、彼の上にある聖霊の靈感によって、明確に彼に与えられたことを成し遂げられた。それゆえ、以下のことは、彼の宗教的教師に任命された者や、特に彼の福音を海外に伝道する計画を公言している高德の協会[海外福音伝道協会(the Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts, SPG)]の義務であることは明らかである。つまり、天におられる主と出来るかぎり近くを歩み、彼が始めた慈悲深い、善意の務めを彼らの能力によって実行することである。彼の人生の一つの偉大な目的は、明らかにすべての種類のすべての形の苦痛を取り除くことであった。そして彼の主要な注意は人間の中でも、もっとも貧しい者、もっとも無知な者、もっとも無力な者、もっとも哀れな者に与えられた。啓蒙されていない世界のすべての地区で、世俗・宗教両方における彼らの不足を救うための、我々の憐み深い助けを必要としているあまりに多くの人々がいることを神は御存知である。居住出来る地球の大部分が依然として真実の宗教の恵みを知らないということは、非常に憂鬱な考慮すべき事柄である。しかし、我々の同胞には一つの社会的身分がある。彼らはほとんどすべての種類のみじめさにおいて非常に際立っていて、聖書の原句で挙げられているすべての種類の悲惨さと一致しているため、人は我々の救い主が実際に彼らに言及したのだと、彼の目には彼らの問題が未来の大きな出来事の中に映っていたのだと考えたくなるであろう。

貧しい者、傷ついた者、目の見えない者、捕虜、奴隷とされた者について彼が語る時、誰が我々の西インド植民地の不幸な人種、アフリカ系奴隷について考えるのを慎むことが出来るのか？もしも、この世界にここで数え上げられたすべての種類の邪悪さが蓄積された、そして同時に貧しく傷心の、目が見えず捕らわれて苦しめられている人間がいるとしても、我々の黒人奴隷はこれらの被造物とのすべての比較を超えている。

文字通りの意味でさえ、この描写は様々な境遇における彼らの正確な状況なのである。しかし、比喩的な精神的な意味において、それは厳密な事実とともに彼らに一致する。一般的に、彼らは育成される理解力も救われる魂も持っていないので、単なる機械、労働するための道具と考えられている。多くの場所で洗礼の儀式のようなことが執行されているだけで、宗教の教義や義務についての適切な指導のための、十分な時間や援助が不足している。日曜日は彼らが一般的に彼ら自身のために使うことが許されている。しかし、彼らは普通、公的礼拝に出席したり個人的な教育を受けたりするのではなくて、お互いを訪問し取り引きをするか、彼ら自身の狭い土地を耕すことに費やしている。ジャマイカは例外で、彼らには[労働以外の]ほかの時間は許されていない¹⁾。

ブリテン領[西インド]諸島だけで、文字通り世界の神を知らずに生きている40万人以上の人間がいることになる²⁾。フランス諸島の黒人は1777年に38万6500人と推定された。アベ・レナルは、アメリカと西インド諸島のすべてのアフリカ系奴隷の人数は140万人だと述べた³⁾。その結果、彼らは心においても生活においても異教徒となって、悪徳と美德の違いを知らないでいる。彼らは自分たちが悪いことをしているという意識なしに、非常な不道徳を自由に行っているのである⁴⁾。彼らは創造者と贖い主の知識や、自然宗教と啓示宗教の主義を持たずに生きている。また、彼らの日常の仕事を行って、彼らに常にふりかかる天罰から逃れようという思想以外、道徳的義務の思想を持たずに生きている。

何千人という我々の罪のない同胞たちが巻き込まれているこのような状況は、すべての人々の感情に憐れみを起こさせるに違いない。そして、高い称賛に価する少しの事例を除いて、これらの個人の一部の間で効果的な手段が実行されていないことは、大きな驚きであり深い関心であるに違いない。その個人は、これらの貧しい哀れな人々の福祉や、彼らとその下で生活している統治の福祉に関心を持っている。また、この宗教的な捕らわれの状態、それは彼らが非難している世俗的な捕らわれの状態（現状のままでも耐えがたい）よりもはるかに悪いが、それから彼らを救うために統治の福祉に関心を持っている。

このような無知で嘆かわしい状態から彼らを救い出すために、ほとんど唯一の相当な努力がこの高貴な協会によってなされてきた。しかし、我々のこれまでの努力が望ましい成功を達成していないことを認めなければならない。しかしながら、何人かの人がそのように考えようとするが、それは彼ら自身が性質において不可能だからではないし、アフリカ人が宗教的知識を受け維持する能力がないからでもない⁵⁾。

そうではなく、付随的な克服出来る原因のためである。すなわち、以下の理由である。

- ・奴隷の教育と改宗に反対する多くのプランターが以前に持っていた偏見。
- ・この目的のために後者[プランター]に与えられた十分な時間と機会の不足。
- ・黒人が長い間とどめられてきた、みじめな恵まれない墮落した未開の、友がいない不道徳な状態。
- ・統治において、彼らに対してほとんど注意が向けられなかったこと。
- ・彼らを保護し発展させる法律や、彼らの状態の厳しさをある程度緩和する法律の不足。
- ・要するに、これまで協会が不十分に対応していた、切迫した重要な性質のほかの要求を

協会自体が聞く必要性、宗教的知識を広めるために基金の多くを使用する必要性。そして、彼らの援助が非常に不足し、熱心に繰り返し援助の必要性が説かれてきた、国王陛下の領土のほかの部分において、公的礼拝を維持するために基金の多くを使用する必要性。

それゆえ、これらのことが黒人の改宗をこれまで遅らせてきた主な障害であろう。しかし、それでは我々はどうすべきであろうか？それを絶望的な実行出来ない夢のような計画と考えて、我々は明らかにこの偉大な関心を捨てるべきなのか、それを進歩させるというすべての望みを捨てるべきなのか。何十万人を超える我々の同胞を非常な無知、無宗教、異教へと永遠にゆだねるべきであろうか？

そのような思想が我々の精神に溶け込むことは不可能である。反対に、我々は明らかに我々の以前の試みの失敗を、この賞賛に値する試みにおける我々の勤勉さと活動を倍増させるための、強固で強力な我々の使命と考えるであろう。そして、我々がこれまで受けてきた妨害は、我々の立派な熱意や意思を弱めるどころか、逆に新鮮な情熱で我々を活気づけ、それらを乗り越えるための新しい手段を我々は試みるようになったのである。もしも、そのようなことが我々の決意であるなら、我々の寛大な努力が最後には成功で報いられると信じる非常に強力な根拠となる。

現在、我々の敬虔な務めにとってより好都合の書物が出版される希望とともに、我々を鼓舞するいくつかの好ましい状況がある。黒人奴隷制の主題についての多くのすばらしいパンフレットが、この何年かのうちにこの国や外国で刊行された。そして、よりすばらしいもう一冊の本がすぐに刊行されるよう希望している⁶⁾。これらのすべてが、西インドのプランターの（もし、まだ残っているとしたら）偏見をある程度取り除くことが出来るであろう。そして、このもっとも重要な目的に対して政府の関心を向けさせるであろう。彼らの奴隷の現在の慰めと未来の救済両方を少しでも顧慮することは、彼らの義務であるだけでなく彼らの利益でもある。このことは、前者[プランター]を満足させるに違いない。そして、後者[政府]に彼らの権力のもとにある哀れなアフリカ人に援助を与えることは、そして、フランス政府がずっと以前に行ったように、彼らの保護、防衛、奨励、改良、彼らの改宗のために法典を制定することは、大いに植民地の法律の知恵となるに違いない⁷⁾。

実際、西インド諸島と本国の富裕な領主は、彼らの代理人および支配人両方に、彼らの黒人の苦痛を和らげ教育を促進するように繰り返し訓令を与えた。そして、プランターは一般的に、彼らの黒人がキリスト教徒になると奴隷ではなくなる、そして、彼らがより宗教的になるにつれてより忠実・活動的・勤勉ではなくなるという、以前考えられていたような想像をもはや警戒してはいない。

これに加えて、戦争が必然的にもたらす多くの悪の中で、先の戦争[アメリカ独立戦争]が一つの偶然の結果を伴った。それについて、商業的観点においてどのように考えようとも、私は宗教的観点において祝福と呼ぶのにためらいはない。それは、この国が長期間にわたってリードしてきた侮辱的な貿易、つまり、アフリカ海岸における奴隷貿易を非常に妨げて減少させた。この結果、西インドのプランターの多くは、奴隷自身の自然な人口によって黒人の不足を補給するために、奴隷、特に女性と彼女の子供を普通以上のやさしさと寛大さで扱ってきた。この賢明で人間的な実践が確立され一般的な習慣⁸⁾になるならば、英語を理解しイングランドの習慣に慣れており、これらの異教の主義や野蛮な様式によって腐敗していない若い黒人の洗礼志願者の継承を支えることによって、それ[奴隷を人間的に扱うこと]は教育と改宗両方の務めを大いに促進するであろう。その異教の主義

や野蛮な様式とともに、アフリカからの新しい奴隷の絶え間ない輸入は必ず彼らを感染させ、数週間のうちにすべての道徳や宗教の感情を消し去ってしまう。彼らの精神にその感情を銘記させることが、何年もの間努力されてきた。

これらは確かに、これまで協会が得ていたよりも公正な成功の見込みを協会にもたらずという意見である。この地区における収穫は、我々がこれまでそれを見出したよりもはるかに豊富であろう。そして、我々にそれへの注意をもっと向けさせ、そして、そこへより多くの労働者を送るであろう。この決断がなされる時はいつでも、我々は疑いなく、バルバドスの我々の委託不動産[コドリントン・プランテーション(Codrington Plantation)]⁹⁾の黒人から始めるのが必要であり正しいと考えるであろう。我々は、改宗させる務めが実際にどれほど実行出来たのか確かめることや、最初に彼らを文明化し、次に彼らが疑いなくそのように作られているように、単なる名目上ではなくて本当のキリスト教徒にするため、すべての可能な手段を実行することを必要であり正しいと考えるであろう。

協会は常に本当に、プランテーションで雇われている奴隷の現世と来世両方の幸福のために、賞賛すべき配慮を見せてきた。協会は彼らの管理人に彼らを非常にやさしく人間的に扱うように、明確で断固とした命令を与えた。彼ら[協会]はキリスト教の教義と義務において彼らを教育する目的で、教理問答師を任命した。彼らは彼らの黒人が規則的に神の礼拝に呼ばれるように、主日に休憩を取れるように気を付けてきた。この目的のために、彼らは彼ら自身が使用するために土曜の午後も許可していた。そして彼ら[協会]の議事録は、彼らの教理問答師に奴隷の精神に宗教の正しい感覚を銘記させることに彼らの最大の熱意を行使するよう、非常に強く真剣な指示で満ちていた。書簡において協会が宣言した点は、彼らが諦めることは不可能だということである。(1769年の協会の議事録を参照。) 賢明で真実のキリスト教の規則があり、それはこの高德の協会の性質に大いに適合すると認められる。しかし、これらの指示が常に正確に提案されたように従われるのか、非常に疑わしい。または、もしもこれらが従われたとして、それらがこの協会の良い意図に十分答えることが出来ないことを恐れる大きな理由がある。真実は、これらは黒人の効果的で重要な改宗のすばらしい始まりではあるが、単なる始まりだということである。

それが十分強く強固な上部構造を支える前に、さらに広く深く基礎が置かれる、置かれるに違いないと私は理解している。「キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです(エフェソの信徒への手紙、第2章第21、22節)。」主題を十分に考察し、我々の黒人奴隷の気質、性質、様式、能力、待遇、状態を長い年月観察し研究する機会があった、すべての人の明確な確固たる意見は、短く言うと次のようになる。つまり、人間のレベルよりも下に沈んだように、低下し墮落した彼らの現在の状況、労働する運命にある単なる動物として扱われ、国家の保護や社会生活の利益からほとんど完全に切り離された状態、彼らの精神を励まし、彼らの野望を刺激し、彼らの希望を促進する実質的な慰めと恩恵が不足した状態において、彼らは宗教の深く継続する影響を受けることはほとんど出来ないということである。実際、ある程度の改良と文明化は神の真実の啓示を告白するために、精神を整えるために常に必要であった。そして、土がほとんど耕されなければ、適切なやり方で農耕が進化しなければ、良い種子はほとんど土の中に根付かないし、または、少なくとも健全さと活力とともに跳ねるほどにそれにしっかりと定着しないし、完全に果実を結ばないであろう。

もしも、我々が我々の黒人に宗教の利益と恵みを伝えるという慈悲深い目的において、

相当の進歩を望むならば、我々は最初に彼らに政府および社会のいくらかの利益と恵みを与えなければならない。我々は可能な限り、彼らと彼らの家族を土地から離れないよう結びつけておかなければならない。そして、彼らに少しの利益を与えなければならない。切望されている少しの権利と特権を認めなければならない。けがや侮辱から不動の法律によって彼らを守らなければならない。彼らの精神を指導し、彼らの道徳を正し、彼らを法的婚姻の束縛、および家族のケアと家庭生活の楽しみに慣れさせなければならない。彼らが耐えられるように、徐々に彼らの状態を改善させ前進させなければならない。そして、(スペイン人のいくつかの定住地において確立されたとされている計画によれば、) 何人かの非常に訓練するに値する者に、優越した長所と勤勉さの報酬として、そして、キリスト教の知識と実践における並外れた進歩の報酬として、ある程度の自由さえも与えなければならない¹⁰⁾。

この制度には、すばらしく心地が良い善意による何かがある。このようないくつかの手段が、いくつかのイングランドの諸島で、少なくとも実験として試みられることが大いに望まれる。(非常に正当な根拠に基づいて、その主題について熟慮した後に) 西インド所領の管理において卓越した判断をした、長期の経験を持つ人には以下のことが信じられている。もしも、ここで提案されたような方法で、我々のプランテーションの黒人が徐々に解放されたら、(彼らの状況のすべての改良は、非常に緩やかであるに違いない) そして、後に彼らの所有者によって確かに公正に規定された価格で雇われ、労働者のように保有されたら、それは黒人にとって親切で憐れみ深い行為になるだけでなく、プランターにとっても有益な変更になるであろう。気候と重労働に以前から慣れており、同時に、自由、感謝、そして少しの財産の見込みが必ず鼓舞するような精神によって活気づけられていけば、彼は不活発な弱った傷心の奴隷の三倍の仕事を行うであろう。そして、新しい黒人を頻繁に購入して、病気や高齢になった彼らを維持するよりも、所有者にとってははるかに安い値段でプランテーションを耕作出来るであろう。(エドワード・ロング『ジャマイカの歴史』502, 505頁を参照。) 私はバルバドスで非常に繁栄した地区において、そこでサトウキビは主に白人の奉公人によって耕作されていると知らされた。

その主題に非常に詳しい人々が主張したように、私も証明されたと考えるが、プランターの権利、財産、または報酬に少しの被害もなく、これがすべてなされるであろう。そして、このような性質の計画が協会の所領に最初に導入されたら、宗教のみならず富の観点でも非常に有益な結果がそれから期待出来るというあらゆる根拠がある。しかし、現在の状況やこれらの所領において、それをよく試みることが出来ないでいる。非常に不幸な一連の事件[アメリカ独立戦争]によって、彼らがその中にこれまで何度か巻き込まれてきた困惑のために、協会は彼らの管理を数年間、彼ら自身から手放す必要が出てきた。現在、そのために今提案されている規則を彼らが存分に確立することは、不得策で実行不可能になるであろう。しかし、ここで示唆された何かは協会の注意を引くのに値するならば、依然として、彼らは少なくとも彼らの熟慮において負担することを許可するであろう。彼らはこの偉大な目的のために彼らの将来の計画を形成し、整理し、取り決めるであろう。そして、徐々に適切な時期にそれらを実行する方法を準備するであろう。その方法においては、彼らが彼らの西インド諸島の財産を当分の間委託した、協会の尊い慈悲深いメンバー(ジョン・ブレイスウェイト, エスクワイア, John Braithwaite, Esq)の心からの同意と援助を受けることは疑いえない。

北アメリカにおける我々の宣教師に関して、この大陸で最近起きた大きな変化の後、彼

らがどのような状況にとどまるのかは不明である。それゆえ、現在、彼らに関してこれ以上のことは言うことは出来ない。つまり、アメリカにおけるイングランド国教会の利益はこの協会によって決して喜んで放棄されることはないのである。そして、我々は出来る限り、我々の宣教師の中の優秀な人々の功績を重んじるという非常に本質的な事実を保持し、示すであろう。彼らは戦争の危険と災難の中で彼らの揺らぐことのない忠誠を保持し、長い厳しい試練を通して、一致して強固に彼らの祖国、協会、様々な世話を任された宗派に対して忠勤に励んだ。

しかし、現在、我々の注意を引いているもう一つの論点がまだ存在している。つまり、カナダ地方のイングランド人プロテスタントである。彼らは今、何千人もの人数が、その国で異なる地域にお互い非常に離れた距離で定住していると言われている。これらすべての教育のために、たった三人のプロテスタント聖職者がいるが、彼らはみな政府によって任命され[給与を]支払われている外国人である。我々自身のコミュニオンのイングランド人聖職者は、すべての地方に一人も存在していないし、プロテスタントに属する教会も一つもない。彼らはローマ[カトリック教会]のチャペルを使用することを強いられている。

カナダにおける我々のプロテスタント兄弟の公的礼拝を支援するために、このような設備は、彼らの要求や追加や改良を求める大きな声には極めて不十分であることを、すべての人々が気づかなければならない。以下のことが自然に希望される。つまり、政府自体は、その問題を正確に表現すれば、多くの援助に価する臣民への政府の保護と援助を拡大し、プロテスタント住人の大変な増加に応じてプロテスタント牧師の集団を増加させることが望まれる。そのプロテスタント住人には、おそらく、ほかのアメリカの地域からの非常に多くの増加が見られるであろう。しばらくの間、この協会はこれらのカナダの地域に対して支払うことが必要だと考えるであろう。カナダではイングランド人プロテスタントの非常に適切な宗教的教育が不足しており、彼らの宗教的感情に調和した公的礼拝の様式に参加するためのすべての機会から遠ざかっている。

しかしながら、協会がこれらの点で行うべきだと考えるすべての尽力は、この説教で勧められてきた偉大で必要な仕事と完全に一致するであろう。そのすべてを実行するための適切な時期は、疑いなく、すでに挙げた理由のために少し遠方にある。しかし、それへの最初の対策は確かに遅れることなく施されたであろう。我々は少なくとも、我々自身の黒人の教理問答師の務めによってなされた効果について、より正確に尋ねる必要がある。我々は必要であれば彼に新しい指示を送り、受け入れてくれるプランテーションには宣教師を任命するであろう。これらの始まりから、我々は我々のプランテーションがすべての西インド諸島にとって模倣するモデルになるまで（私はいつかそうなると期待しているが）、それが世界に、我々と我々の宗教にとって名誉に値する本当のキリスト教徒の黒人から成る小さい社会に劣らず、素晴らしい光景を見せるまで、我々の計画の完成にむけて次第に進歩するであろう。

その黒人は公正な分別を強く認識し、神、彼らの主人、彼らの共働者、彼ら自身へ負っている彼らの義務の習慣的な慣習のもとで生活し、定着した法律と厳格な規律によって統治されている。しかし、それらはやさしさと人間性で和らげられているのである¹¹⁾。彼らは社会生活や家庭生活の少しの慰めと利益を享受し、彼らの子供たちが道徳と宗教の主義において教育されるのを見て、彼らの毎日の仕事を敏速に誠実に行い、彼らの主人を彼らの友人や保護者や後援者のように仰ぎ見る。そして、彼らは自由と自分の故郷を失った

ので、「彼らの軛を負いやすく、彼らの荷を軽くする」ために、彼らの様式を文明化し、彼らの理解力を広め、彼らの心を改良し保護することによって、彼らを慰め、より良くより幸福な国という将来性を彼らに見せる。その国では彼らの目から流されたすべての涙がぬぐわれ、悲しみと奴隷制はなくなるであろう。

このような状況は夢のような考えとは程遠いと私は確信しており、人々にとって喜ばしいであろう。それは西洋世界に敬虔と美德を備えた新しい学校を作るであろう。近隣のプランテーションと諸島、おそらくすべてのアフリカ海岸におけるすべての奴隷のための宗教の神学校を作るであろう。ほかのプランターが抵抗することが不可能な分別、秩序、協調性、勤勉、幸福の例になるであろう。そして、アフリカの奴隷の改宗に対してなされてきた様々な反対に、世界中のすべての思索的な主張よりも効果的に論駁するであろう¹²⁾。

我々を巻き込むであろう追加の出費の不安によって、この高貴な試みが妨げられないようにしよう。我々が以前に多額の出費をしたほかの地区からの我々への要求は、おそらく、ますます少なくなっていくであろう。我々の西インド諸島の所領のためにかかった費用は今、次第に返済されており、そして、アメリカで今実施されていない布教にかかる資金、貯蓄、節約でさえ、(それらを再確立することは、実行不可能で不得策であろう)提案された企画のすべての目的をかなえるために十分すぎるであろう。しかし、もし我々の収入でまかなえる以上の要求がなされたとしても、我々は適切な支援の不足を心配する必要はない。今後、黒人奴隷の文明化と改宗が我々の敬虔な仕事の主要目的の一つとなること、そして、その目的のための適切で実行出来る計画が公になることが知られば¹³⁾、その時にすべての愛情とすべての援助の手が広がるであろう。そして、疑いなく、我々の後援者と寄付の増加によって、すぐに我々の非常に希望に燃える願いが満たされるであろう。イングランド人の親切、人間性、公正さは、約 50 万人の彼らの同胞が異端、無宗教、悪徳の非常に嘆かわしい状態に居続ける状態から、彼らを救出するのに必要であろうすべての援助を協会に与えずに、黙認することは出来ないのである。

この善意の真実のキリスト教徒の試みにおいて、グレートブリテンが指導していくことは名誉になるであろう。さらに、哀れなアフリカ人の災難を聖俗両方の面で緩和するよう非常に寛大になることは、この国の人々の義務であると私に付け加えさせてほしい。なぜなら、彼らは何年もの間、(最近の戦争 [アメリカ独立戦争] によって中断されるまで)非人間的な人身売買に関わってきていて、ほかのどのヨーロッパ諸国よりも多くの奴隷を輸入してきたからである。彼らの手段によって、何千人、何百万人もの人間が祖国から、価値あるすべての恵みから、彼らにとって大切なすべての関係から引き離されてきた。そして、彼らは信じがたいほどつらく困難な航海を終えてから(その中で彼らの多くが実際は死亡した¹⁴⁾)上陸して、知らない人々の間に入っていった。そして、彼らの犯罪や誤りはないのに、永久の奴隷状態へと運命を定められた。彼らが残した(彼らが残さねばならなかった唯一の遺産)奴隷状態は、彼の最新の子孫まで永久に固定した¹⁵⁾。

確かに、この諸島への被害を与えずに、上で提案した方法によってこの残酷な大破壊 [奴隷貿易]を防ぐことが出来ないか、何度も熟考する価値がある。解放された奴隷がサトウキビを耕作するよう努めることによって、または、黒人たちにプランテーションの要求と等しく彼らが増加するような奨励を与えることによって、アフリカからさらに奴隷を輸入する必要性も防止出来るであろう。我々の同国人に出来るだけ早く、非常に多くの人間に引き起こした災難を軽減するよう急がせよう。出来るだけそれを和らげ緩和することに

よって、そして、彼らが無知と罪のより残酷な奴隷状態から救おうとすることによって、非常に多くの純粋な同胞を大変ひどい世俗の奴隷身分にしているという非難を拭い去ろう。

つまり、彼らに協会の寛大な努力と試みに協力してもらおう。「心が傷ついた者を癒し、捕虜に救出を説き、目の見えない人の視力を回復し、傷つけられた人々を自由にし、主が恵みをお与えになる年を説くために。」

解説

本稿は、1783年2月の海外福音伝道協会の年次記念大会におけるビールビ・ポーティアスの説教(Beilby Porteus, *A Sermon Preached before the Incorporated Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts: At Their Anniversary Meeting in the Parish Church of St. Mary – Le – Bow, on Friday February 21, 1783, London, 1783*)を全訳したものである。

以下、ビールビ・ポーティアス(1731-1809)について述べたい。ポーティアスは18世紀後半から19世紀初頭に活動したイングランド国教会聖職者であり、チェスタ主教およびロンドン主教を務めた。アメリカ植民地における奴隷への布教を推進することを主張し、当時は当然のように行われていた奴隷制や奴隷貿易を批判した。彼の両親は、イギリス領アメリカのヴァージニア植民地で生まれたプランターであった。彼らはヴァージニア植民地で自分自身の土地を所有し、主にタバコを栽培していた。しかし、病気および子供たちにより良い教育を受けさせるため、両親は1720年にイングランドへ渡り、その家族はヨークに定住したのであった。ポーティアスはヨークトリポンの学校で学び、1748年、17才でケンブリッジ大学クライスト・カレッジに免費特待生として入学し、1752年に数学や古典において優秀な成績で卒業した。その後はクライスト・カレッジのフェローとなった。1757年に執事に叙任され、同年ヨーク大主教マシュー・ハットン(Matthew Hutton)によって司祭に叙任された。1762年、カンタベリ大主教トマス・セッカー(Thomas Secker)のチャプレン(chaplain, 礼拝堂付き司祭)に任命され、ロンドンのランベスに移った。また、ケントやランベスの教会の主任司祭、ピーターバラ主教区の聖堂参事会会員を務めた。1765年、ケンブリッジ大学で神学の博士の学位を取得し、1769年に国王のチャプレンに任命され、1776年、チェスタ主教に昇任した。

彼はチェスタ主教区で貧しい聖職者のための基金を設立したほか、すべての教区に日曜学校を設置した。また、主教は一代限りの貴族として貴族院に議席を持っており、彼は貴族院においても活動した。奴隷貿易に反対するキャンペーンに初期のころから関心を寄せていて、海外福音伝道協会(SPG)のメンバーでもあった。SPGは1701年にロンドンでイングランド国教会聖職者によって設立された布教団体である。彼は1783年、SPGの年次記念大会で奴隷への布教についての説教を行い、その説教が刊行された。1787年、彼はロンドン主教に昇任し、すぐに福音主義の支持者となった。そして、奴隷貿易廃止運動のために尽力したのである。彼は海外でのキリスト教布教に関心が強く、SPGのほかにも、国教会伝道協会(Church Missionary Society)や聖書協会(Bible Society)の活動を支援していた。

彼は1780年代初期から奴隷貿易の問題に関わっており、1790年代から議会を通して奴隷貿易廃止を実現しようと努力した指導的人物であった。ただ、彼はそのキャンペーンから1808年初めごろ離れていき、奴隷制そのものの廃止に着手したのであった。

本説教が刊行された1783年はアメリカ独立戦争の末期であり、イギリス本国とアメリカ植民地との交流は途絶え、宣教師を派遣して布教することは困難であったが、SPGはカ

ナダと西インド諸島植民地への布教は継続していた。彼は奴隷貿易と奴隷制両方を批判するとともに、奴隷へのキリスト教教育を勧めている。年次記念大会における説教では、毎年異なった聖職者によって様々なキリスト教についての主題が話され、奴隷をはじめとする異教徒への布教について述べられたものもある。しかし、奴隷貿易や奴隷への布教についてこれほど大きく取り上げた説教はなく、彼の説教は重要である。また、過去の説教において、奴隷貿易と奴隷制を批判する言説を含んだ説教も 1760 年代からいくつか出版されていたが、批判箇所は比較的短く、明確に述べられていないものもあった。ポーティアスの説教は奴隷貿易と奴隷制を具体的な事例を挙げて非難し、奴隷の待遇改善や改宗を訴えるものであり、意義があると思われる。

原著注

1) その島には奴隷が通う市場が日曜日に開かれている。この主日に対する冒瀆は不敬であり不必要であると思われる。『ジャマイカの歴史』の著者は木曜日がより適切な日であろうと考えている。それは確かにより適切な曜日であろう。ユダヤ人は彼らの奴隷に土曜日と日曜日両方を許可している。エドワード・ロング『ジャマイカの歴史』第2巻, 491, 492 頁。(Edward Long, *History of Jamaica*, vol. II, 1774, pp. 491, 492.) 以下, []は訳者の補いである。

2) 我々の様々な西インド諸島における奴隷の人数は、現在、およそ以下の通りである。

ジャマイカ	174,000
バルバドス	80,000
アンティグア	36,000
グレナダ	30,000
セント・クリストファ	27,000
セント・ヴィンセント	15,000
ドミニカ	15,000
アングイラ	14,000
ネヴィス	10,000
モンセラト	9,000
合計	410,000

3) アベ・レナル『東・西インド諸島における定住と貿易についての思想史および政治史』第4巻, 15 頁。(Abbe Raynal, *A Philosophical and Political History of the Settlements and Trade of the Europeans in the East and West Indies*, vol. 4, 1812, p. 15.)

4) 一般的に、黒人は彼らが満足するほどの多くの女性と関係を持つこと[一夫多妻制]が許されており、その期間は彼女らを自分の妻だと考えている。二つの派がお互いに分離して、彼らが適切だと考えるものと同じ種類の新しいコネクションを形成している。そして、我々は非常に信用出来る権威から、彼らの道徳の現在のシステムは、キリスト教の教義によって明白に批判されている、このような悪徳に無制限に寛大であると知らされた。『ジャマイカの歴史』第2巻, 409, 414, 424 頁。

5) 黒人はしばしば、直せないほど非常に愚かで愚鈍なので、すべての宗教的教育を受けることが出来ないとみなされてきた。しかし、彼らとともに何年も生活した信用出来る人は、これはまったく真実から程遠いと主張している。彼らは本当に、一般的に理解力の点ではヨーロッパ人よりもはるかに下であるが、彼らの多くは手仕事の技術を

学ぶことにおいては急速で器用である。そして、何人かは非常に並はずれた才能と非常に高貴な感情を持っている。

- 6) ケント州テストンの司祭ジェームズ・ラムジによる手稿「ブリテン砂糖植民地におけるアフリカ系奴隷の待遇と改宗についてのエッセー」(James Ramsay, *An Essay on the Treatment and Conversion of African Slaves in the British Sugar Colonies*, 1784)のこと。彼は19年間セント・クリストファ島に住み、その大部分の期間にこの主題を彼の特別な研究としていた。私はこのジェントルマンに、主に西インド諸島の奴隷の状態についての情報を負っている。
- 7) ここでほのめかされている法律システムは黒人法典(CODE NOIR)と呼ばれ、最初に1685年に刊行された。私が見たことのあるその複製は、パリで1767年に印刷された12折り判であった。それは、黒人の食物、衣服、待遇、統治、主義、道徳、宗教に関する多くの賞賛に値する規則を含んでいる。そのほか、それはすべてのプランターに彼の黒人に洗礼を施し、キリスト教の主義と義務において適切に教育させる義務を負わせている。それはこれらの目的と休日のために、奴隷に毎日曜日だけでなくローマ教会で定められたすべての祝日を許可している。それは日曜日や休日に市場を開くことを許可していない。それはすべての主人の管理人に、彼らの女性奴隷を墮落させることを厳格な罰則のもとに禁止している。それは黒人の夫、妻、幼い子供を別々に売却することを許可していない。それは所有者に彼らの高齢の衰弱した老衰した奴隷を維持させる義務を負わせている。それは彼らに拷問や法外で非人間的な刑罰を使用することを禁止している。もし黒人が法律で規定されたように食事と衣服を与えられなかったら、または、もし彼らがどのような点でも残酷に扱われたら、彼らは彼らの保護と救済を行う義務がある司法長官(the Procureur)に願い出てもよい。

そのようなことは、フランス国家の彼らの奴隷に対する人間的な応対処置である。多くのすばらしい法律が、南米のスペイン人に雇用されているインディアンのためにも制定された。そして、これらのほかに、すべてのインディアンの地区は、彼らに教育するために任命された政府によって雇われた保護者と聖職者がいた。もし、インディアンが正当な権利を剥奪されたら、主要な高位聖職者は行政長官に指導し訓戒する権力を与えられていた。黒人はそこで安易なだけでなく贅沢に生活している。ウィリアム・ロバートソン『アメリカの歴史』初版、第2巻、350, 368, 274, 377, 493頁。(William Robertson, *History of America*, 1777, vol. 2, pp. 350, 368, 274, 377, 493.)

- 8) 適切なケアと注意によって、大家族の母親に報酬や自由さえも与えることによって、黒人により緩和とより良い栄養を許可することによって、そして人間性と人の良心に訴える方針が自然に規定するそのほかの様々な手段によって、これが容易にもたらされることは疑いえない。そして、おそらく、これは最初は取るに足らない支出で、現在の努力よりも少し減額された支出で[奴隷の]面倒をみていた。しかしながら、新しい奴隷の購入に費やされている莫大な金額の節約によって、そしてアフリカから輸入された黒人よりも現地生まれの黒人の方が非常に優越していることによって、これはすべて十分に払い過ぎるということになるであろう。エドワード・ロング『ジャマイカの歴史』436, 437, 439頁を参照。
- 9) 我々の協会のメンバーでない人々に以下のことを知らせる必要があるだろう。西インド諸島における所領に言及すると、我々は我々自身の権利でそこに財産を所有しているのではないし、それは我々の一般的基金の一部を構成しているわけではない。我々はコ

ドリントン大佐によって我々に寄贈されたバルバドスのある土地の単なる所有者である。その土地は、彼の遺言で指示されたように利用している信託財産である。この信託財産によって恩恵を受けるどころか、我々は非常に多くの貸付金によってそれを援助しなければならないのである。

- 1 0) ここで述べられたスペインの規則はハヴァナで実施されたと言われている。それは以下のものである。奴隷が到着するとすぐに、彼の名前、値段等が公的に登録される。主人は法律によって彼に毎週、日曜日のほかに彼自身のために労働する一日を与えなければならない。彼がその一日を主人のために働くことを選んだら、彼はそのために自由人の賃金を受け取る。そして、その日に彼の労働によって得られたものは何でも、法律によって彼に保証されており、主人はそれを彼から奪うことは出来ない。奴隷が別の労働日を購入出来たら、主人は彼に釣り合った価格、すなわち彼の価格の五分の一で彼に売らなければならない。そして残りの四日も同様に同じ歩合である。奴隷がそれらを買戻したらすぐに、彼は絶対的に自由になる。グランヴィル・シャープ『奴隷制の正当な制限』の付録、53頁を参照。(Granville Sharp, *The Just Limitation of Slavery*, 1776, p. 53.)
- 1 1) 大変知識のある著述家が述べたのだが、クレオールの子供はキリスト教の規定において非常に穏健な指導を受けて、鞭を使わなくても良い規律を保っているようである。そして人間的な待遇によって、彼らは彼らの国の撲滅者というよりも擁護者になるであろう。エドワード・ロング『ジャマイカの歴史』第2巻、411-429頁。
- 1 2) ここで提案されているような、黒人の本当の一般的な改宗は夢のような計画ではなくて、完全に実行出来るものである。そして、それは奴隷と彼らの所有者両方にとって非常に有益であろうということは、すでにモラヴィア派(Moravian)の宣教師によってなされたこの務めにおける進歩によって、明らかである。デンマークのセント・トマス、セント・クロア、セント・ジョン島で、彼らのもとには約 6000 人の改宗者がいた。彼らはまた、アンティグア島で数百の会衆を持っていた。私は公的礼拝で彼らを見た信用出来るジェントルマンによって、次のことを確信した。彼らの態度は非常にまじめで思いやりがあり、信心深く啓発的であった。そして、彼らは禁酒、勤勉、平静、忠実、服従においてほかのすべての奴隷よりも非常にまざっている。プランターは彼らの黒人に宣教師の指導を受けさせたいと切望しているのである。フランス領の諸島でも、ローマ教会の司祭と宣教師による黒人の改宗は一般的である。結果は、フランスの奴隷はイングランドの奴隷よりもはるかに分別があり、正直で規則正しく秩序を保っている。誤った信仰のシステム[カトリック教会]でさえそのような効果があるならば、同じ熱意で説き聞かせたイングランド国教会の教義から何か期待出来ないであろうか？
- 1 3) もし協会がここで提案された方法を採用することが適していると考えれば、それらを実行するための計画をやがて彼らが考慮するであろう。
- 1 4) 航海中や諸島における鍛錬(seasoning)において、時々新たに輸入された黒人の三分の一が失われた。エドワード・ロング『ジャマイカの歴史』第2巻、434頁。アンソニー・ベネゼ『グレートブリテンとその植民地への注意と警告』40頁。(Anthony Benezet, *Caution and Warning to Great Britain and Her Colonies ...*, 1767, p. 40.) 最近のギルドホールでの裁判では、黒人を乗せた船が非常に水不足に陥って、133人の黒人が手錠をかけられ海に投げ入れられたことが明らかになった。
- 1 5) 1768年にアフリカ海岸から連れて来られた奴隷の人数は、ケープ・ブランコから

リオ・ロンゴまでは 100410 人であった。そのうち、53100 人はブリテンの商人が運んだのである。アメリカと西インド諸島における年間の一定の輸入量は、最近は平均して 6 万人であると推定されている。これを恐怖なしに考えることが出来るであろうか。奴隷貿易は 1503 年頃に最初に始まり、イングランドは 1556 年頃にそれを開始した。その時から現在までの毎年の黒人の損失を計算したら、どれほど恐ろしい人数になるに違いないか読者に少し考えていただきたい！アベ・レナルはアフリカからの輸入の総計は 900 万人だと述べている。(アベ・レナル『東・西インド諸島における定住と貿易についての思想史および政治史』第 4 巻, 1812 年, 154 頁。)